

学芸員とめぐる戦争のつめ痕—名古屋城界限編—を開催しました。



案内人の伊藤厚史先生

今回で4回目の開催となる、戦争のつめ痕を歩く大人気のウォーキングツアー「学芸員とめぐる戦争のつめ痕」。

今年はさわやかな秋晴れのもと、愛知・名古屋 戦争に関する資料館の企画展示「戦災にあった名古屋のまち」（※現在は終了しております。）を見学した後、資料館周辺に残る戦争遺跡をたどりながら名古屋城まで歩きました。

参加者からは、「案内してくれる人がいなければ絶対に気づかなかった」「大変勉強になった」などといったお声をいただき、主催者一同嬉しく思っております。今回のツアーが、新しい視点で街歩きを楽しむきっかけになれば幸いに思います。

<ツアーの様子>



名古屋市役所本庁舎。よく知られている建物にも戦争のつめ痕が残っています。



名古屋城の周辺にはたくさんの碑が立っています。



中には、年月とともに木に飲み込まれようとしているものも。



秋晴れの名古屋城です。

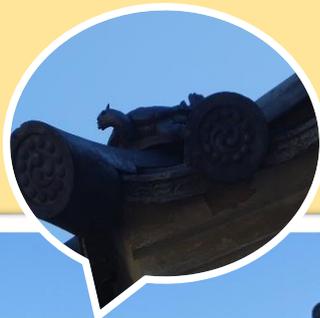




名古屋城の天守は、1945年5月14日の空襲で焼け落ちました。建物は再建されましたが、今もそのつめ痕が残っています。



明治時代に弾薬庫として作られた乃木倉庫は、万が一の爆発の際には爆風が上方へ抜けるよう、壁が煉瓦造り、屋根小屋組みが木造になっています。



探してみてね！



床下はどうなっているのかな？



門の瓦葺屋根に亀を発見！
熱田には蓬莱島の伝説があり、“蓬莱島は亀の甲に乗っていて、その尾の位置に名古屋城がある”という言い伝えに関係があるとのこと。
名古屋城には「亀尾城」の別名もあります。



V字型の切れ込みは、戦時中に松脂を取った跡です。物資欠乏の折、代用燃料として期待されたもので、名古屋城周辺の松のいくつかにも採取の痕跡が見られます。

<今回歩いたルート>



- 愛知・名古屋
戦争に関する資料館
- ▼
- ①「忠霊」碑
- ▼
- ②防空庁舎建設時の廃土
- ▼
- ③日本政府境界柱
- ▼
- ④陸軍営内神社跡
- ▼
- ⑤第三師團の煉瓦塼
- ▼
- ⑥「勅諭下賜○○」碑
- ▼
- ⑦戦災にあったカヤ・ムクノキ
- ▼
- ⑧乃木倉庫
- ▼
- ⑨天守閣の礎石や石垣
- ▼
- ⑩「忠霊」碑のあった
栄嶺山と手水鉢

愛知・名古屋 戦争に関する資料館では、年間を通してこの地域の戦争のことが学べる展示を行っています。現在、企画展示「戦争と企業：自動車工業－動員・代用燃料車・航空機製造への工場転用－」を開催しております。（開催中～令和4年3月6日まで）

皆様のご来館を心よりお待ちしております。



今回のツアーの案内人・伊藤厚史先生が監修された「ガイドマップ 愛知・名古屋 戦争のつめあとと散歩」を資料館で配布しています。当館のホームページからもダウンロード出来ますのでぜひご利用ください。
ダウンロードは[こちらから](#)